

虎高 P T A 通信

Torahime High School Parent Teacher Association



2022 年度
春夏号

No.
151

本年度着任されました兼房校長先生にインタビューしました。
先生の魅力そして本校にかける思いを紹介します。

虎姫高等学校
兼房 一浩 校長先生

PTA会長
下司 貴之

PTA会長が聞く

兼房校長先生ってどんな先生

会長 本日は誠にありがとうございます。
まずは自己紹介を含めて本校に来られるまでの経歴を教えてくださいませんか。

校長 教員生活は数学の担当教員として八幡商業高校6年間から始まり、河瀬高校を13年、そして県教育委員会を13年、伊吹高校の校長として1年、その後再び県教育委員会を経て、本年本校に参りました。

会長 数学をご担当だったということですが、なぜ数学を当初選ばれたのでしょうか。

校長 理系に進みたい、そして物理にも興味がありました。社会の事象をモデル化したり、数式化したりするなどといったことに興味がありました。そんな学問の面白さ、楽しさを高校生にも教えたいという思いもありましたね。

会長 そうなんですね。担当されていた部活などはどうでしたか。

校長 ハンドボール部やサッカー、あとは吹奏楽の担当など多岐にわたりますね。

会長 校長先生ご自身は何かスポーツはされていたのですか。

校長 私自身、実は大学時代はスケートをやっていたんです。

会長 珍しいですね！スピードスケートですか？

校長 フィギュアスケートです。

会長 なんと、素晴らしいですね！今こそメジャーな競技ですが当時は珍しいですよ。ジャンプなどもされたんですか？

校長 もちろんできます（笑）

数学が好きで広島大学理学部数学科に入学しましたが、フィギュアにのめり込み成績は・・・

今思えば専門の学習にもう少し力を入れるべきでした。しかしながら得られたものも大きかったです。スケートでは国体にも出場できました。

会長 校長先生の意外な一面を見れて嬉しいです。スケートと数学、ある意味畑違いの才能にギャップ萌えですね。

虎姫高校では就任中にやり遂げたいことなどありますか。

校長 スーパーサイエンスハイスクールは次期指定のためにこの2年間全力で取り組みたいと思いますし、バカロレアに関してもIB機構から2年後に評価されることとなりますので、先生と生徒たちとともに学校全体でしっかり取り組んでいきたいと考えています。

湖北の地にある虎姫高校の責任は重いと感じています。地域のためにどんなことが出来るのか。そんな気概をもって取り組んでいきたいと思っています。湖北の人口が減っていますが、全県から注目を集め、生徒に選んでもらえるような魅力ある高校にしていきたいと思っています。

会長 強い決意をありがとうございます。みんながさらに誇れる虎姫高校になってほしいですね。

現在虎高に通う生徒たちに伝えたいことは何でしょうか。

校長 自分に自信を持つてほしいし、そんな人になってほしいと思います。

生徒には、今まで何をきてきて何をしたいのかなど、人に対して自分のことをしっかりと紹介（説明）できる力を持つて欲しいと願います。私は学校、生徒のその繋ぎ目にあるのが保護者だと思います。学校が困っていること、または色々な要望にこたえていくのがPTAだと考えています。

会長 最後に保護者、PTAに対して一言お願いします。

校長 子どもたちのほうが我々やみなさんより今後生きる力も身につけていく存在となっていくと思います。保護者のみなさんには、



今後の進路に関しても子どもたち自身の思いや、自身に納得をもって決めさせてあげて欲しいですし、それが今後の人生の礎にもなると思います。

良い意味で過度に子どもたちに期待をせず、先を生きていく子どもたちを温かく見守ってあげて欲しいと思います。

当然進路は大きな関心事です。結果も大事ですが、ただ一人ひとりがどう成長したか、どんな力を身につけたか、それを目標としてほしいですし、そのための教育をしていきたいです。

会長 PTAも近くにおりますしベストな活動を探っていきたいと思います。

ぜひ生徒たちの可能性やチャレンジに背中を押してあげて欲しいですし、子どもたちも学習だけで終わらずに、ネットなどの情報だけでなく、先生たちとたくさんの「生きた」コミュニケーションをとってほしいと願いますね。校長先生、本日は誠にありがとうございました。

今度ともどうぞよろしくお願いたします。



会長挨拶

平素は、PTA活動にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。コロナにより授業だけでなく学校運営またPTA活動も制限され今までに無い事態になり2年が経ちました。これまでの虎高の歴史や文化活動を途絶える事なく引き継ぎまた次年度へと新に繋いでいくためにもPTA会員皆さんの協力が必要です。

各委員会も今まで通りの近い形で事業を行えるよう可能な限り調整をさせていただいております。生徒が、学業や思いづくりと充実した学校生活を送れるよう支えて行ければと思います。今年度も更なるご協力のほど宜しくお願いします。

PTA役員紹介

(2022年度 PTA 役員)

役職	氏名
会長	下司 貴之
副会長	渡辺 浩之
	宮本 智絵
会計	辻村 和之
	川崎 美佐子
会計監査	小山 浩二
	川瀬 之洋
書記	堀 浩治

(2022年度 教育振興会役員)

役職	氏名
会長	速水 一生
副会長	下司 貴之
会計	辻村 和之
会計監査	小山 浩二
	川瀬 之洋
委員	富岡 正臣
	川崎 美佐子
	渡辺 浩之
	宮本 智絵



▲ 左から、渡辺 / 下司 / 速水 / 宮本

(2022年度 PTA 常任委員)

地区	氏名	委員会
西浅井・湖西	木下 直大	COM
	阿辻裕美子	研修
余呉	武友 新吾	研修
木之本・杉野	成田 尚人	COM
高月	山岸 真美子	COM
	松田 元雄	広報
湖北	涌井 陽子	研修
	前川 和彦	広報
虎姫	音羽 勇雄	広報
浅井	江菅 裕子	COM
	川瀬 之洋	広報
	藤田 秀子	広報
びわ	田畑 圭史	研修
	藤澤 直子	広報

長浜東	高橋 邦浩	広報
長浜西	西脇 朝世	COM
	間宮 咲子	研修
	北村 鉄也	広報
長浜南	辻村 和之	研修
	北川 由里子	広報
長浜北	高橋 康之	COM
	押谷 照代	研修
	朝日 博子	広報
	川瀬 智久	広報
	小山 浩二	COM
米原以南	千田 千冬	COM
	佃 洋次	研修

(2022年度 PTA 学校関係)

地区	氏名
校長	兼房 一浩
教頭	富岡 正臣
事務長	川崎 美佐子
教務主任	矢田 志奈
進路指導主任	細井 剛
生徒指導主任	澤村 祥太
3年学年主任：常任委員	塚田 豊
2年学年主任：常任委員	南部 康弘
1年学年主任：常任委員	松宮 敬広
教務課：常任委員	岩崎 俊裕
教務課：常任委員	寛 聡
教務課：書記	堀 浩治

2022年度 事業計画

4月8日(金)	第77回入学式、PTA・教育振興会入会式
4月27日(水)	第1回PTA常任委員会
5月7日(土)	PTA総会・進路講演会(虎姫文化ホール)
6月10日(金)	第1回滋賀高P連評議員会【総会】
7月5日(火)・6日(水)	虎高文化祭 PTA本気のフォトブース
7月7日(木)	虎高体育祭
7月13日(水)	PTA通信第151号(春夏号)発行
7月18日(月)	第47回近畿地区高等学校PTA連合会大会(大阪)
7月23日(土)	愛のバトロール 夏季休業中の一斉巡視
8月25日(木)・26日(金)	第71回全国高等学校PTA連合会大会(石川県)

10月15日(土)	PTA会員研修開催予定
10月	第2回湖北地区高等学校PTA連絡協議会【研修会】
11月8日(火)	第2回滋賀高P連評議員会【研修会】
3月1日(水)	第75回卒業証書授与式
3月	PTA通信第152号(秋冬号)発行
3月11日(土)	第2回PTA常任委員会

2022年度 教育活動支援事業

夏季休業中等	2年生：サマーセミナー／滋賀大・滋賀県立大学連携講座
8月2日(火)・11月6日(日)	オープンHiスクール(中学生体験入学)(PTA新聞配布)
2学期	東京大学・東京工業大学・慶応大学・武蔵野美術大学連携講座(1年希望者)

クラス紹介

Torahime High School

CLASSROOM

1年1組



1年5組



1年4組



2年3組



2年4組



3年2組



3年3組





1年2組



1年3組



2年1組



2年2組



2年5組



3年1組



3年4組



3年5組



部活紹介



(イラスト 藤唯可)

Torahime High School

CLUB ACTIVITY



(イラスト 北村 若葉)

茶華道部



部員 14 名

顧問：山根孝子、矢田志奈

私たち茶華道部は、美しいお点前や作法を身につけてお茶を楽しんでいます。また、季節を感じながらそれぞれの感性で生花も行っています。たくさんの方に茶道と華道の良さを知ってもらえるよう日々精進していきます。

科学探究部



部員 9 名

顧問：松宮敬広、細井剛、梅本美保

私たちは2年生7人、1年生2人の計9人で活動しています。活動日は月・水・金の3日間です。しかし、大会前は忙しく土日でも活動することがあり、とても大変ですが、満足できる発表を目標にして、日々研究に励んでいます。

美術部



部員 28 名

顧問：中尾和美、田附久美子

美術部は、主に週3回(月・水・金)、県高文祭への油絵出品、定期的な部誌発行、虎高文化祭での作品展示・販売を中心に活動しています。とてもアットホームな雰囲気の中、楽しく一生懸命に絵を描いています。

家庭・園芸部



部員 25 名

顧問：福田裕子、黒川湧暉

私たち家庭・園芸部では、お菓子作りや手芸などを自分たちのペースで行っています。コロナ禍による制限で虎祭では、例年のようなクッキーの販売はできませんが、今年は手芸教室の開催を計画しました。

吹奏楽部



部員 24 名

顧問：上杉真代、堀浩治、菅原信章、松村大介

私たちは夏のコンクールで県大会に出場する事を目標としています。その後、3月にある演奏会を最終目標として活動しています。多くの方の記憶に残るような演奏ができるよう、毎日を大切にしながら活動に取り組んでいます。

囲碁将棋部



部員 16 名

顧問：坂本秀誠、塚田豊

今年は9名の新入部員が入り、将棋だけでなく囲碁の活動も充実し、前年度に比べかなり活気づいています。この勢いで、将棋は近畿優勝、囲碁は全国優勝を目標に頑張りたいと思います。応援よろしくお願いいたします!!

アーチェリー部



部員 23 名

顧問：日置康代、西脇誠、宮部睦美

私たちは、「実践躬行」という言葉と共に、団体近畿大会出場、個人でも上位入賞を目指し、練習に励んでいます。技術を磨くことは勿論、一人の人間としても成長するため、誠実な態度で競技と向きあっています。

サッカー部



部員 39 名

顧問：渡邊航大、五十嵐聡、虎頭良裕

僕たちサッカー部は、県ベスト8を目標に2年生17人・1年生14人で日々練習に取り組んでいます。春の大会では、惜しくも守山北高校に敗れてしまいましたが、その悔しさを糧として、これから頑張っていきたいです。

ESS



部員 15 名

顧問：富岡真理子、ポップ・ベンジャミン、宮部睦美、ミュエル・ソレンソン

私達ESS部は、全国大会出場を目標に、日々練習に励んでいます。他校さんとの練習試合を繰り返し、最近ではチーム一人ひとりの実力も伸び、団結力の高まりを実感しています。これからも更なる成長のため頑張ります。

新聞部



部員 42 名

顧問：鈴木真由美、算聡、虎頭良裕

私たち新聞部の活動は月に一度の校内新聞の作成、発行を主として行っています。また全国総文祭で良い結果を残すことも目標に日々新聞作成に取り組んでいます。是非、私たちが作った新聞に目を通してください。

アメリカンフットボール部



部員 7 名

顧問：矢盛琢磨、山本翔輝

毎日、楽しく心も体も鍛えています。現在、部員不足で試合出場が危ぶまれています。高校から新しいスポーツをやりたい・自分を変えたい・充実した高校生活を送りたいと思っているあなた、ぜひアメリカンフットボール部に入学して一緒に頑張らしましょう。グラウンドで活動中、ぜひ一度見学に来てください。

女子卓球部



部員 11 名

顧問：藤井賢治、宮田崇弘、松村大介

私たち女子卓球部は団体戦県ベスト8を目標に活動しています。日々の練習では一球を大切に、試合でスキルを最大限に発揮できるよう努力しています。またチーム全体で切磋琢磨して互いに高め合い頑張りたいです。

卓球部 男子



部員 16 名

顧問：藤井賢治、宮田崇弘、松村大介

男子卓球部は、県大会団体ベスト4に入ることを目標に活動しています。個性的な部員も多いですが、チームとしてまとまりのある部活です。勉強との両立も図りながら、さらなる高みを目指し、練習に励んでいます。

ソフトテニス部 女子



部員 30 名

顧問：岩崎俊裕、菅原信章

私たち女子ソフトテニス部は、1年9人、2年9人で、どんなときも楽しくテニスをしつつ、切磋琢磨を意識して日々の練習に取り組んでいます。技術面だけでなく人としても成長することを目標にしています。

バスケットボール部 女子



部員 17 名

顧問：南部康弘、寛聡

春季大会では目標に届きませんでしたが、バスケを通じて、大きく成長できたと感じています。仲間と過ごした時間は、この上ない大切な宝物になりました。家族、先生方には感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとう！（叫）

バドミントン部 男子



部員 26 名

顧問：北村英仁、矢田志奈

私たち男子バドミントン部は、先輩たちの残した結果を1つでも超えることを目標に、日々の練習に励んでいます。また、挨拶や礼儀といったプレー外の部分も大切に、部員18人全員で協力して楽しく活動しています。

ソフトテニス部 男子



部員 38 名

顧問：荻野泰成、塚田豊

私たち男子ソフトテニス部の目標は、個人戦では1ペアでも多く近畿に出場すること、団体戦ではベスト8を維持しベスト4を狙うことです。部員一人ひとりが目標を高く持ちチーム一丸となって頑張っています。

バスケットボール部 男子



部員 22 名

顧問：徳原真也、梅本美保

男子バスケ部は、選手9人マネージャー5人で活動しており、県ベスト8を目標にしています。この目標に向けて、虎高の男バスらしい明るさを大切にしながら、少ない人数だからこそできる濃い練習を続けていきます！！

バドミントン部 女子



部員 15 名

顧問：吉田晴洋、田附久美子

私たちは春季総体であと少しのところまで負けてしまい、悔しい思いをしました。次の大会では引退された先輩方の思いも背負って、一つでも多く勝てるように新チームで毎日練習を全力で頑張りたいと思います。

バレーボール部 女子



部員 22 名

顧問：川瀬千津、福田裕子

1年生4人、2年生12人の個性豊かなメンバーで県ベスト8を目指して活動しています。一人一人の良さを引き出し、粘り強いプレーで勝利をつかみ取れるチームを作りたいと思っています。応援よろしくお願ひします。

バレーボール部 男子



部員 17 名

顧問：中野裕斗、細井剛

春季総体ではチームとして思うような結果を出すことができませんでした。引退した先輩方や応援してくださる方々の思いを背負い、1勝でも多く勝てるよう、日々の練習を頑張ります。

水泳部



部員 9 名

顧問：瀬戸川信江、杉山将崇、堀浩治

私たち水泳部は、シーズンオフの期間である冬の時期も毎日陸上トレーニングをやってきました。この努力を三年生としては、最後の試合で、1・2年生としては、次につながる試合になるよう精一杯力を出しきりたいと思います。

陸上競技部



部員 36 名

顧問：川村洋輔、鶴口篤寛、西村祐亮

3年生が引退し、新しい雰囲気でも部活動がスタートしました。現在は8月に行われるユース選手権を目標とし、近畿大会出場を目指す選手もいます。陸上を楽しみながらも、効率よく質の高い練習を積み重ねていきます。

硬式野球部



部員 17 名

顧問：澤村祥太、二宮祐弥、黒川湧暉

虎姫高校野球部は1年生8人、2年生6人、3年生3人の計17人で活動しています。甲子園出場を目指して日々練習に励んでいます。選手権大会まで全力で頑張りますので、最後まで応援よろしくお願いします。

剣道部



部員 23 名

顧問：高橋英樹、川居慧士

剣道部では、夏の大会で男子団体、女子団体ともにベスト8を目標に掲げ、日々精進しています。三年生の先輩方が春季総体で引退され、新チームで初めて臨む大会です。先輩方にも良き姿が見せられるように頑張ります！



事務局



2列目 左から日比野 畑野 宮本 山崎 田中
1列目 左から川崎吉 川崎美 野瀬

日比野 由美子 事務員

吹奏楽、コンサート、ピアノ、選択音楽、etc. 音楽まみれの高校生でした。

畑野 茂治 事務員

理系志望が微分検定に合格できず、やばいよやばいよで文系に転向。

宮本 清次 業務員

教師になれる様な高校生でした。ダメな反面教師ですけどね・・・。

山崎 毅 業務員

2時間目が終わったら休み時間に早弁をよくしていました。

田中 武男 事務員

部活の陸上部を頑張っていました。

川崎 吉彦 事務員

兵庫県の高校、陸上部でした。鹿児島インターハイに出場しました。

川崎 美佐子 事務員

おとなしい性格でしたが(今も)そこそそ青春していました。

野瀬 拓也 事務員

高1で剣道部を辞めて、体は楽になったけど後悔してた記憶あり。

生徒指導課



2列目 左から西脇 吉田 澤村 西村 二宮
1列目 左から山根 瀬戸川 中尾 藤井

西脇 誠 理科、アーチェリー

週2回の病院通いでしたが、良い友達に支えられました。

吉田 晴洋 人権教育推進主任
国語、バドミントン女子

家→学校→まえ店、家→学校→まえ店を繰り返す普通の虎高生でした。

澤村 祥太 主任
保体、硬式野球

野球ばかりしていた高校時代でした。

西村 祐亮 生徒会担当
数学、陸上競技

数学・物理・陸上の3つにひたすらエネルギーを注ぐ毎日でした。

二宮 祐弥 生徒会担当
保体、硬式野球

野球に明け暮れる高校生でした。でもとても充実した日々を過ごしていました。

山根 孝子 養護教諭
茶華道

よく笑い、よく食べ、よく寝て、よく動き、よく吸収した。

瀬戸川 信江 生徒会担当
英語、水泳

洋楽好きで海外への憧れが強く、英語の勉強を頑張っていました！

中尾 和美 英語、美術部

食欲と戦いつつ、ボート部と勉強の両立等を夢見る女子でした。

藤井 賢治 保健主事
地歴公民、卓球

インターハイ出場を目指して日々部活(卓球)に励んでいました。



左から梅本 鈴木 上杉 細井 荻野

進路指導課

梅本 美保 理科
バスケット男子、科学探究

ずいぶん昔のことで忘れてました笑

鈴木 真由美 国語、新聞

下手なのに、なぜか一生懸命部活をしていたバレー部員でした。

上杉 真代 理科、吹奏楽

生物の授業が大好きで、生物準備室に入り浸っていました。

細井 剛 主任
理科、科学探究、バレー男子

いたって普通の高校生？高一の時、吉田先生と同じクラスでした。

荻野 泰成 地歴公民、ソフトテニス男子

勉強と筋トレを頑張る日々でした。

教務課



2列目 左から北村 菅田 川瀬
2列目 左から福田 ベンジャミン 杉本 川居 田淵 菅原
1列目 左から虎頭 岩崎 寛 サミュエル 富岡 矢田 堀

北村 英仁 ICT 担当
地歴公民、バドミントン男子

部活の帰りにみんなで何食べて帰るか、しか考えていませんでした。

宮田 崇弘 SSH 担当
理科、卓球

勉強が青春の高校生活(当時は満足してました)

川瀬 千津 IB 担当
英語、バレー女子

学園祭の英語劇では白タイツをはいて、白雪姫の王子役しました。

福田 裕子 総務担当
バレー女子、家庭・園芸

学校生活に一生懸命でした。楽しいことも！苦しいことも！

ポップ・ベンジャミン IB 担当
英語、ESS

高校生との時、ずっとピザ屋でバイトしてて、おいしいもの食べすぎました。

杉本 智子 司書

数学と物理、化学で、悲惨な成績を取っていました。

川居 慧士 ICT 担当
国語、剣道

受験を気にせず、興味の赴くままに過ごす高校生でした。

田附 久美子 SSH 担当
理科、バドミントン女子、美術部

ふわ〜と、その日暮らしの学生生活でした。

菅原 信章 数学、吹奏楽、ソフトテニス女子

毎朝、平均時速 30km/h の自転車で登校していました。でも、始業時刻の1時間前には登校していました。

虎頭 良裕 国語、新聞、サッカー

「部活は2年の秋まで」といわれた時代に、3年の夏まで現役だった。

岩崎 俊裕 IB 担当
数学、ソフトテニス女子

良くも悪くもなく文武両道の日々でした。物理が大好きでした。

菅原 聡 PTA 担当
国語、バスケット女子、新聞

ナマケモノ。ぼんやりと空想にふけていました。

サミュエル・ソレンソン 英語、IB 担当

未確認飛行物体ではなく、焼きそばのUFOでもなく、管楽器の「ユーフォ」に夢中だった！

富岡 真理子 IB 担当
英語、ESS

友達に会いに学校に行っていました。

矢田 志奈 主任
数学、バドミントン男子、茶華

スマホがない分、友達とよくしゃべった理系女でした。

堀 浩治 PTA 担当
理科、水泳、吹奏楽

思ったことはすぐに行動する生徒でした(ただし、あと先をあまり考えていません)

Torahime High School Introduction

職員紹介



校長 兼房 一浩

今は無き、電気部に所属。地味な高校生だったのではないのでしょうか。



教頭 富岡 正臣

ひたすら部活動、引退後は受験勉強と、一つのことしかできない不器用な生徒でした。



左列 手前から 松村 黒川 南部
右列 手前から 川村 日置 中野

松村 大介 国語、卓球、吹奏楽

智徳館で宮田先生と卓球ばかりしている高校生でした！

黒川 湧暉 地歴公民、硬式野球、家庭・園芸

365日のうち355日は学校に行く高校生。

南部 康弘 第2学年主任 保体、バスケット女子

ホワイトO子をこよなく愛する高校生でした。



ジャマール・アルハビル ALT

高校時代は、内気な生徒でしたが、いつも最善を尽くそうと努力していました。両親は高校に行っていないので、頑張るように励ましてくれました。



アルジェイ・デューク 派遣ALT

高校時代は運動が得意で、野球とアメフトの選手でした。



足利 恵津子 非常勤講師 国語

通学の電車で文庫本に夢中になり、乗り過ごすこともありました。



薄井 道正 非常勤講師 国語

ガリ板と鉄筆を武器に、ひたすら議論にあけくれた日々でした。



宮川 弘久 非常勤講師 国語

こわいもの知らずで生意気なところがあり、よく失敗もしました。



水谷 孝信 非常勤講師 地歴公民

陸上競技とギターとバイクにひたすら熱中する日々でありました。



光明 祐寛 非常勤講師 社会

ユネスコ部の部長。進路で悩む。長く懇意にいただいた恩師との出会い。



澤井 俊孝 非常勤講師 数学

目立たない、いたって普通(?)の高校生でしたよ。



笹原 徳光 非常勤講師 理科

とてもナイーブな感じかな。



浅井 浩 非常勤講師 理科

何度も失敗したり、怒られたりしながらも夢をもっていたかな。



橋本 寿子 非常勤講師 英語

楽を好み、怠けてばかり熱中できる自分を見つけたまでは。



左列 手前から 山本 五十嵐 松宮
右列 手前から 高橋 鶴口 坂本

山本 翔輝 国語、アメリカンフットボール

応援団や劇の責任者を行うなどがちゃがちゃした高校生でした。

五十嵐 聡 数学、サッカー

弁当を3限後に食べて昼休みはフットサルなどで汗を流した高校生。

松宮 敬広 第1学年主任 理科、科学探究

先生の似顔絵図鑑をつくって先生に配布するような高校生でした。

高橋 英樹 理科、剣道

部活終わりの前店が好きな高校生でした。

鶴口 篤寛 英語、陸上競技

色んな人のおしゃべりが好きでした！今も同じです(笑)

坂本 秀誠 数学、囲碁将棋

3年生の11月まで囲碁部に参加する進学校の生徒でした。



2列目 左から渡邊 矢盛 宮部
1列目 左から塚田 杉山 徳原

渡邊 航大 地歴公民、サッカー

今と変わらず、秘密を楽しんでいました。

矢盛 琢磨 保体、アメリカンフットボール

エネルギーが溢れて止められない高校生でした。

宮部 睦美 英語 ESS、アーチェリー

留学にあこがれて外国へ行ってみたいと夢っていました。

塚田 豊 第3学年主任、英語、囲碁・将棋、ソフトテニス男子

会話の半分はダジャレ。陽気・元気・能天気なヤツでした。

杉山 将崇 理科、水泳

とにかくにもクライミング大好きで登ることはばかり考えていた。

徳原 真也 数学、バスケット男子

ギャグを言って周りの空気を和ませる(時々凍らせる)高校生



領家 実 非常勤講師 体育

勉強より体育祭で目立とうとしてました。



小林 美咲 非常勤講師 体育

一年中、日焼けで真っ黒な部活女子でした。



白谷 仁子 非常勤講師 音楽

声楽とピアノのレッスン、ヤマハのpopcon 出場、音楽三昧の女子高生でした。



松岡 和枝 非常勤講師 美術

高校美術展覧会前は放課後、昼休みも部室や外で油絵製作していた。



坂木 茂昭 非常勤講師 書道

書道に関わる仕事ができたらと思う時期であったように思います。

Q どんな高校生でしたか？

第2学年

第1学年

第3学年

変化する世界への適応

子供の頃、母はよく自分の子供時代について話してくれたが、中東で生まれ育った母と、アメリカで生まれた私の子供時代は、全く違うものだとすることがすぐに明らかになった。この違いについて聞かれると、母はよく「あなたの両親があなたを育てたようにあなたの子供を育てないでください。彼らはあなたの時代とは違う時代に生まれてきたからです。」というアラビア語の格言で答えていた。私たち兄弟が違う時代に生まれ、自分たちが慣れ親しんだやり方とは異なる方法で子育てをする必要があると、両親には分かっていた。

この格言について、今年まであまり考えたことはなかった。近年、教師は教室で先進技術をどんどん取り入れるよう奨励されている。この変化についていくのは大変だが、ALTや教員にとって追求すべき重要な変化だというのが私の信念だ。生徒たちは科学技術に支配された時代に働き、生きていくので、その準備をさせるのが私たちの役目だからだ。

教室で科学技術を取り入れることは、生徒が将来職業に就くときに役立つだけでなく、言語習得への垣根を低くしてくれる。生徒たちは、マイクロソフトのTeamsを使うことで、パワーポイント、ワークシート、さらに他の教材にどこにいても接続できる。Quizletのようなウェブサイトを使うと、自分で単語帳を作らなくても、楽しいゲームを携帯やタブレットでしながら語彙習得ができる。Flipgridという動画を共有するアプリで他の生徒の映像を見れば、教室にいなくてもリスニングの力を磨くことができる。

正直に言おう。これは簡単なことではない。ALTになるまで、私はこれらのアプリやサイトを使ったことはなかった。使うのをやめようと思ったこともあった。でもあきらめなかったのは、最終的に、生徒たちを「違う時代」に向けて準備させたいと思ったからだ。

(翻訳| 滋賀県立虎姫高等学校 教諭 日置康代))

外国語青年招致事業（通称 JET プログラム）を通じて、本校に赴任されたジャマールさんは、外国語指導助手 (ALT) として3年間ご尽力されました。このたびの8月の帰国を機に JET 青年体験論文集に投稿されたジャマールさんのエッセイを紹介します。

Adapting to a Changing World

Torahime High School: Jamal Alhabeil

As a child, my mother would often tell me stories of her childhood and it quickly became obvious that her upbringing in the Middle East was much different than mine in America. When asked about this difference, she responded with:

“مکنامز ریغ نامزل اوقلرخ مهناف مكوئاب مكوئاب امك مكدالوا اوبرت ال”

This Arabic phrase roughly translates to: Do not raise your children the way your parents raised you, for they were born for a different time. For my parents, they understood that my siblings and I were born into a different era than their own, and thus they needed to approach our upbringing differently than what they were accustomed to.

I didn't think much about this phrase until this year. Recently, teachers have been encouraged to use more technology in the classroom. Although this change may be difficult, I believe it is important for ALTs and teachers to pursue it. Our students will work and live in an era dominated by technology, and it is our job to prepare them for that.

Not only does using technology in the classroom help prepare students for their future jobs, it also makes language learning more accessible. My students can now access their PowerPoints, worksheets, and other materials anywhere they want using Microsoft Teams. Sites like Quizlet allow them to study their vocabulary words on their phones / tablets using fun games instead of having to make flashcards. They can even practice their listening skills outside of the class by watching their classmates' videos on Flipgrid, a video sharing application.

I won't lie; it hasn't been easy. I had never used most of the programs and sites before becoming an ALT. There were moments that I thought about giving up, but I persevered because in the end I wanted to prepare my students “for a different time”.



2022年度 生徒会長
2年4組 宮川 悠希

私たち生徒会は、新たに15人を加え計25人で活動しています。今年度は、目安箱の設置による全校生徒の意見を取り入れやすくする環境づくりを始めとする、新しい形での生徒会活動を始めました。学園祭や球技大会など、様々な活動を運営していく中で、全校生徒や先生方、姉水会・PTAの皆様、そして地域住民の方々の方々の力をお借りしながら、先輩方が築かれた伝統を受け継ぎ、新たな伝統を築いていくために全力を尽くしたいと思っています。

1年間温かい応援をよろしくお願ひします。

生徒会だより

Torahime high school student council

MATION

2022年度入試を振り返って

進路指導課 細井 剛

本校の2022年度入試を振り返るとき、もっとも大きな出来事の一つが、大学入試共通テストの極端な難化であったと思います。

「数学Ⅰ・数学A」「化学」「生物」「日本史B」など7科目がセンター試験時代を通じて過去最低点となりました。特に受験者の多い「数学Ⅰ・数学A」では約20点、「数学Ⅱ・数学B」では約17点も平均点が前年よりダウンし、多くの受験生が影響を受けた結果、7科目文系型(900点満点)で-48点、7科目理系型(900点満点)で-61点と、前年より大きくダウンしまし

た。「高等学校段階における基礎的な学習の達成の程度を判定」する試験と定義される共通テストにおけるこの結果は、各所より批判の多いところであり、今後もこの傾向が続くかは不明ですが、今年度以降受験する皆さんには注意が必要かと思います。

さて、当然昨年度の虎高の3年生の皆さんも、この共通テストの難化には大きな影響を受けたわけですが、結果的には例年を上回る国公立大学への合格率となったことは、大健闘であると評価しています。特に、国公立大中期・後期試験の合格者は24名もありました。毎年1月頃より始まる大学の

一般入試戦線ですが、国公立大中期・後期試験は3月の10日前後に実施されます。このことは、長く苦しい受験期間でも、最後まで目標をあきらめず頑張りぬくことの大切さを示していると思います。昨年度春休み直前の3月23日に、ある公立大に本校より追加合格者が出ました。この生徒は大きな喜びをもって、その大学に進学していったことを書き添えておきます。



年別現役合格延人数

種 別	令和2年3月卒	令和3年3月卒	令和4年3月卒
卒業生数	233	230	190
国公立大学	83	81	73
私立大学	475	584	694
計	558	665	767
公立短大	1	0	2
私立短大	2	4	0
専修学校等	12	17	15
就 職 公務員等	2	0	0

第74回生(令和4年3月卒)進学希望者数に対する合格率・進学率

人 数	合格率・進学率	
進学希望者数(A)	190	
合格者数(B)	180	合格率 B/A 95%
進学者数(C)	175	進学率 C/A 92%
国公立大学数(D)	73	国公立大合格率 D/A 38%

PINKMASK DAY



PINKMASK DAY PROJECT

多様性を認め合う世の中に

虎高から社会に向けて発信！ピンクマスクデープロジェクト

ピンクマスクデープロジェクトとは

ピンクマスクデープロジェクトは、国際的に認知されている、いじめ反対運動「ピンクシャツデー」をヒントに、コロナ禍のなかでふさわしいものと、「ピンク色のマスク」を着用して、いじめ、差別を撤廃し、個性を認めあえる社会を目指そうと訴える、本校学生主体の活動です。

2月23日のピンクシャツデーに合わせて、みんなでピンクマスクを着用し、長浜市をピンク色に染めようとする一大プロジェクト。

活動の主体は、プロジェクトに参加したいと自主的に集まった生徒により結成された「ピンクマスクデー実行委員会」です。

活動のきっかけ

きっかけは、学校の授業を通じてSDGsの目標について学び、自分たちの力で小さなことから何か社会貢献できないかと考え始めたことですが、その背景には「コロナ」ショックがありました。コロナ禍により激変した学校生活に対して、「やり方を色々変えて乗り越えなければ」というチャレンジできる環境が学校に整っていたことや、新たにコロナ差別が生まれ、いじめや差別と



美術部橋本歩さん
ロゴデザイン入りのピンクマスク
(写真 中田 喜雅)

いう解決策が見えにくい課題に対して、自分達なりに答えを探ってみたいという思いもあったそうです。

「いじめをやめよう」と訴えていてもいじめや差別はなかなか解決しない。どうして起こってしまうのか」を着目した結果、メンバーが導き出した答えが「多様性を認め合う」ことでした。多様性を認め合い、自分の生まれた地域でずっと住み続けられる世の中こそSDGsのゴールであり、私たちの目的だとメンバーは言います。

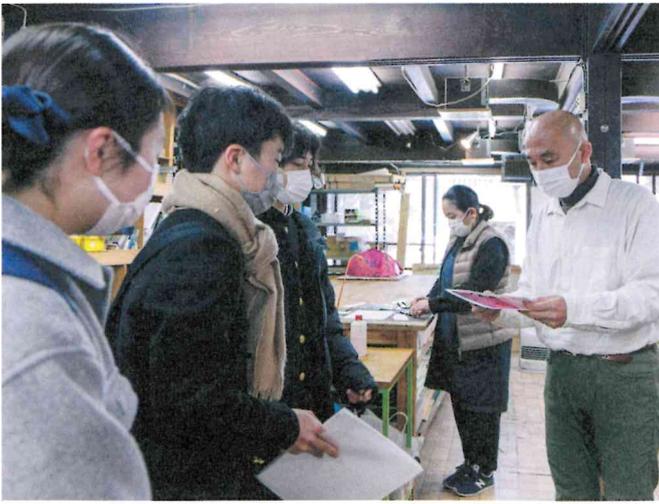
具体的な取組

具体的には、長浜市内の小中学校を中心にピンクマスク運動に賛同してくれるすべての子ども達にマスクを配布しようと、市内8校の小中学校と連携し、マスクを配布することができました。

また、この取組を広く皆さんに知ってほしい思いから、ホームページを自ら制作し、SNSでは日々の活動を地道に発信しました。

そして、活動に必要な資金調達も生徒自ら行いました。協賛者を募るため、クラウドファンディングを活用し呼びかけたところ、目標金額を超える48人、201,000円の協賛金を集めることができました。

活動はマスクを配布するだけにとどまらず、自分で考えた授業を小学校で行うことが叶い、「違いを認め合う大切さ」をテーマに市内小学校の児童に対して教鞭を揮いました。児童達の反応はよく、積極的に意見を言ってくれたり、授業後すぐにマスクをつけてくれたりして、感触をつかめたことに喜びを感じたそうです。



商店に生徒自ら協力依頼。(写真 中田 喜雅)



イベントには多くの人が参加してくれました。(写真 中田 喜雅)

ピンクマスクで地域活性化

2月23日の「ピンクマスクデー」では、運動を広めるため、中心市街地の観光地である「黒壁スクエア」や商店とタイアップしてイベントを行うことになりました。商店1軒1軒に生徒自ら協力を依頼し、長浜を訪れる観光客などにピンクマスクの配布やクイズラリーを行いました。

「三方よしの精神を大切にたく、マスクの事前配布はこのイベントに参加してもらうため。たくさんの方がまちなかに来てもらい、コロナで苦しみ商店を応援できれば」と、いじめ、差別撲滅を超えて、地域活性化の思いも膨らんでいました。お店の人からは「たくさんの方がピンクマスクを付けてお店に来てくれた」、「いつもよりお客さんの数が多かった」と報告を受け、「本当にやってよかった」と、やりがいをととても感じたそうです。

イベントの最後には、市内小中学校とタイアップして、いじめや偏見についてのメッセージなどを付箋に貼った大きなモザイクアートを披露し、参加者と記念撮影で締めくくりました。

学校改革にも波及

この取組は、学校の改革にもつながりました。校則では、「係・委員会は男子1人、女子1人計2人で構成」となっていたものを、「最初から男子・女子を決めつける必要がないのでは」という考えのもと、男子・女子の縛りを廃止する署名を集め、生徒会臨時総会で議決されました。

活動から得たこと

プロジェクトに参加してみて、生徒達は「たくさんの人をお願いに行ったことで物怖じしなくなり、コミュニケーション力がついた」、「自分たちの行動で、世の中を変えるチャンスがあるということがわかった」、「前例なしで0から1を作ってきたことは、大きな経験だった」など、このプロジェクトを通じて生徒達が得るものは大変大きかったようです。

プロジェクト担当の杉山将崇先生は、「長浜を舞台に、たくさんの人と関わり、たくさんの人に応援してもらいながら活動を行ったことで、地域への愛着と誇りが芽生えたと思う。生徒達は一旦長浜から世界へ飛び立つと思うが、郷土のことは忘れず、いずれは地域へ貢献をしてくれるのでは」と、若者のふるさと回帰に期待されました。

次へのチャレンジ

ピンクマスクデープロジェクトは、今年度も世代交代して現1・2年生主体で行います。大学や人権に関わる行政機関とのタイアップなど、新たな試みも加え、さらに深みのある活動になりそうです。

保護者の皆様も、生徒達のチャレンジにぜひ応援のほどよろしくお願ひします。

NEWS

今回の活動は、SDGs達成に向け高校生がアイデアを考える「SDGs Quest みらい甲子園 関西エリア大会」において、2021 SDGs Quest アクションアイデア最優秀賞に輝きました。



モザイクアートの前で参加者と記念撮影。(写真 中田 喜雅)

